

私たちの町の文化財

■第8話 谷隠軒跡

谷尾崎の梅林公園一帯には、江戸時代に谷隠軒という寺院がありました。細川家菩提寺である妙解寺の末寺です。江戸時代の書物「肥後国陳跡畧志」に「谷村二谷隠軒アリ 水石奇絶ノ処處 妙解寺ノ別院ナリ」という記載があり、その後の「肥後国誌」にも同様の記述（「水石幽勝ノ地山澗間寂ノ境…」）があることから、古くから名勝地として知られていたようです。

公園内の石垣を注意して見ると、石を切り出す際に付いた矢穴の痕跡を確認できます。このほか、僧侶の墓石や、菅原社の石祠や石灯籠、手水鉢などの石造物が各所に残り、往時の状況を偲ぶことができます。なお宮本武蔵ゆかりの坐禅石がありますが、武蔵が生きていた時代にはまだ谷隠軒は存在していなかったようです。前述の肥後国誌や墓石の記銘によると、正徳5年（1715）から享保14年（1729）の間に、妙解寺3代目住職の桂隠宗仙により創建された可能性が高いようです。

ところで、皆様ご存知だったでしょうか。この周辺は、はるか昔、旧石器時代の遺跡でもあるのです。昭和54年頃に、付近の丘陵上から、細石核という、今から1万5千年くらい前の石器が発見されています。（熊本日日新聞 昭和54年9月29日記事）この地では、旧石器時代から、人々が生活していたのです。

熊本市観光文化交流局文化振興課埋蔵文化財調査室 岩谷 史記氏
谷尾崎町の梅林公園

谷尾崎の梅林公園周
辺に旧石器時代から
人々の集落が存在し
たといは

